

■東北地方太平洋沖地震災害への対応（第1報）＜第1次派遣～第5次派遣＞

○第1次派遣(3月12日～13日):増川 晋、田頭秀和、黒田清一郎、林田洋一



【長期供用アースフィルダム(福島県)の被災状況】
堤頂の保護アスファルトに発生した亀裂(アスファルト施工継ぎ目の箇所での離脱)を確認。



【堤頂部の開口状況の確認と今後の変状の確認方法等の助言】
調査員の足下のガードレール基礎と天端保護アスファルトの接続部に離脱開口の変状が生じている。

○第2次派遣(3月14日～15日):堀 俊和、中里裕臣、上野和広



【堤体斜面が大きく崩落したため池の被災状況】
ため池堤体の天端に亀裂が発生。また、上流の法面にはすべりの発生が認められる。

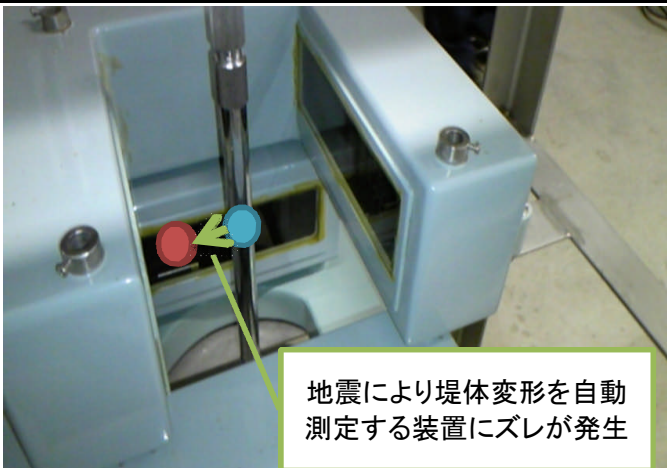


【今後の変状の確認方法等の助言】
決壊等の被害が拡大しないように、貯水位管理の方法や漏水、変形などの堤体監視方法について助言した。

○第3次派遣(3月14日～15日):中嶋 勇



【コンクリートダム(福島県)の現地状況】
目視による点検を実施。その結果、堤体に変状は認められない。



地震により堤体変形を自動測定する装置にズレが発生

【調査状況】
地震後、堤体変形を表す自動計測値が増大した。ただし、調査の結果、その原因は計器の故障と判明。実際の値は地震前後で変化無し。

○第4次派遣(3月17日～21日):丹治 肇、友正達美、原口暢朗、桐 博英、北川 巖、森 充広、中矢哲郎



【海岸堤防と背後農地の被災状況(宮城県)】

海岸堤防は至る所で決壊。農地には津波によってもたらされたゴミが散乱し、広範囲に海水が溜まっている。水路施設もゴミが集積し機能不全となっている。



【今後の調査と対応方法についての意見交換】

海岸線に近い被害の甚大な地区と比較的損傷の軽い地区を切り分けて対応策を検討。また、施設の復旧と地域全体の復興について、両面から検討が重要であることを確認。また、個別の施設の機能回復については、別途詳細な調査が必要と助言した。

○第5次派遣(3月21日～26日):中里裕臣、吉迫 宏、井上敬資



【長期供用アースフィルダム(福島県)の被災状況】

天端堤軸方向に、ほぼ堤長全域にわたる亀裂を確認。余震等による2次災害の防止や安全な貯水位を検討するため、天端部の亀裂深度を探査した。(亀裂部に、目視点検のための石灰水等を投入するため現場で混合作業中)



【調査状況と今後の変状確認方法等の助言】

電気探手法を用いて亀裂範囲を推定。その結果を基に、国・県・土地改良区職員に、ダムの貯水位の管理の考え方について助言した。



農工研職員一同は、被災された地域の皆さんとともに復旧と復興に全力で取り組みます。